介護職員初任者研修
シラバス

人材育成研修施設

ひといく伊月

別添３

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	（１）職務の理解				
到達目標	研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる				
修了時の評価ポイント	なし				
指導の視点及び展開例	○研修過程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにする ○学習内容を体系的に整理して知識を効率かつ効果的に学習できるような基本の形成を促す ○視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容をできる限り具体的に理解してもらう				
項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①多様なサービスの理解	3	3	―	○介護保険サービスについて（居宅、施設） ○介護保険サービス、介護保険外サービスについて	○「介護」とはどのような仕事であるのか、携わる際の重要な事、これから目指す介護職員像についてグループワークを行い、これからの研修の方向性、目的について認識を深める
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	―	○居宅や施設などの各種現場における仕事内容 ○実際のサービス提供現場の具体的イメージ （視聴覚教材の活用、職員体験談、実習や見学等）	○視聴覚教材（DVD）を鑑賞後、グループワークを行い、介護の現場や仕事内容、サービス提供についてのイメージ等をディスカッションを行い、イメージを深める
合計時間	6	6	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援				
到達目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解する				
修了時の評価ポイント	○介護の目標や展開について、尊厳の保持、ＱＯＬ、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる ○虐待の定義、身体拘束、及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる				
指導の視点及び展開例	○具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す ○具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す ○利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えてもらい、尊厳という概念とその重要性に対する気づきを促す				
項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①人権と尊厳を支える介護	4	4	ー	1.人権と尊厳の保持 ○個人として尊重（アドボカシー、エンパワメントの視点）○尊厳のある暮らしと役割の実感　○プライバシーの保護 2.ICF ○ICFについての考え方、介護分野での活用方法 3.QOL ○QOLについての考え方 4.ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方 5.虐待防止○身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法　○身体拘束　○養護者支援 6.個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法	○事例を通してどのようなケアが不適切な介護や虐待なのか、またどのような行為が利用者の権利を害するのかを検討することで介護、支援のあり方を考える
②自立に向けた介護	5	5	ー	1.自立支援 ○自立支援とは　○残存能力の活用　○意欲を高める支援　○個別性（個別ケア）○重度化防止 2.介護予防 ○介護予防の考え方と施策	○事例を通して、どのような支援方法が自立支援や予防介護となるのか検討することで、自立支援に対する理解を深める
合計時間	9	9	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(3) 介護の基本
到達目標	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する ○介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる
修了時の評価ポイント	○介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる ○介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携について列挙できる介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる ○生活の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる ○介護職に起こりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点を列挙できる
指導の視点及び展開例	○可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す ○介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2	―	1.介護環境の特徴と理解 ○訪問介護と施設介護の違い ○地域包括ケアシステムについて 2.介護の専門性について ○介護の目指す基本視点 3.介護にかかわる職種 ○異なる専門性を持つ他職種の理解 （介護支援専門員、サービス提供責任者等） ○専門性を活かした効果的サービスの提供とチームケアにおける役割分担	○事例を通してどのようなケアが不適切な介護や虐待なのか、またどのような行為が利用者の権利を害するのかを検討することで介護、支援のあり方を考える
②介護職の職業倫理	1	1	―	1.自立支援 ○自立支援とは　○残存能力の活用 ○意欲を高める支援　○個別性（個別ケア） ○重度化防止 2.介護予防 ○介護予防の考え方と施策	○事例を通して、どのような支援方法が自立支援や予防介護となるのか検討することで、自立支援に対する理解を深める
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2	―	1.介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術「ハザードとリスク」 2.事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント　○事故の分析と要因の探索 ○事故の報告と情報の共有（家族、行政等） 3.感染対策 ○感染症について ○感染予防の基礎知識（感染源、感染経路） ○感染経路別予防	○事故を未然に防ぐた めの方法や事故はな ぜ起こるのか事故の要 因を考え、危険予知、 危険予測について理解する ○事例を通して、危険予知、危険予測に関するグループワークを行い、理解を深める
④介護職の安全	1	1	―	1.介護職の安全と心身の健康管理 ○健康管理と介護の質　○感染症予防○対策 ○ストレスマネジメント　○腰痛予防	感染症対策を踏まえ、手袋・マスク・エプロン（ガウン）の着脱方法を演習する
合計時間	6	6	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービスの流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる
修了時の評価ポイント	〇生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる 〇介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる 例：税が財源の半分であること、利用者負担割合 〇ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる 〇高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的、内容について列挙できる 〇医行為の考え方、一定の要件の元に介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる
指導の視点及び展開例	〇介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する 〇利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①介護保険制度	3	3	ー	1.介護保険制度創設の背景、目的、動向 〇ケアマネジメント 〇介護予防重視型システムへの転換 〇地域包括支援センターについて 〇地域包括ケアシステムの推進 2.仕組みの基礎的理解 〇基本的仕組み 〇介護〇介護予防給付について　〇要介護認定について 3.制度を支える財源、組織、団体の役割 〇介護保険の財源について 〇事業者の指定、指導監査	〇事例を通して、介護保険制度を利用するまでの一連の流れについて理解を深める
②医療との連携とリハビリテーション	3	3	ー	1.医療との連携 〇医行為と介護 〇介護職員の医療行為を行うための制度について 〇訪問看護 〇施設における看護,介護の役割と連携 〇リハビリテーションについて	〇グループワークにて医行為を行ってはいけない理由を考え、医行為と医行為でないものについて理解を深める
③障害者福祉制度およびその他制度	3	3		1.障害者福祉制度の理念 〇障害の概念　〇ICF 2.障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 〇給付についての申請から支給まで 3.個人の権利を守る制度の概要 〇個人情報保護法　〇成年後見制度 〇日常生活自立支援事業	〇どのような事が個人情報に当たるか、それを保護するためには、どのような取り組みが必要かをグループワークにて行い、個人情報の保護について理解を深める
合計時間	9	9	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術				
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なること、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する				
修了時の評価ポイント	〇共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 〇家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる 〇言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる 〇記録の重要性と機能に気づき、主要なポイントを列挙できる				
指導の視点及び展開例	〇利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す 〇チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す				
項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3	3	ー	1.介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 〇相手のコミュニケーション能力に対する理解 〇傾聴と共感 2.コミュニケーションの技法 〇バーバル〇ノンバーバルコミュニケーション 3.利用者、家族とのコミュニケーション 〇利用者の思いを把握し、共感する 〇家族の心理的理解、信頼関係の形成 〇アセスメント手法とニーズとデマンドの違い 4.利用者の状況〇状態に応じたコミュニケーション技術の実際 〇コミュニケーション技術の基本 〇視力、聴力に応じたコミュニケーション技術 〇失語症に応じたこみぃにケーション技術 〇構音障害に応じたコミュニケーション技術 〇認知症に応じたコミュニケーション技術	〇言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの伝達演習を行い、特徴を理解し、介護におけるコミュニケーション技術の必要性について理解を深める 〇受容・共感・傾聴などのロールプレイを行うことで利用者の思いを知るコミュニケーションについて理解する
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	3	ー	1.記録における情報の共有化 〇介護における記録の意義〇目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 〇介護に関する記録の種類 〇個別援助計画書 〇介護周辺の記録（ヒヤリハット等）〇5W3H 2.報告 〇報告、連絡、相談の留意点 3.コミュニケーションを促す環境 〇会議（情報共有、役割認識） 〇ケースカンファレンス	〇記録方法についての実演を行い、それについてグループワークを行い、共有することで記録の方法、内容について理解する
合計時間	6	6	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(6) 老化の理解				
到達目標	加齢、老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する				
修了時の評価ポイント	○加齢、老化に伴う生理的な変化や心身の変化○特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる ○高齢者に多い疾病の種類とその症状、特徴、治療○生活上の留意点および高齢者の疾病による症状や訴えについて理解できる				
指導の視点及び展開例	○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す ○チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す				
項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3	ー	1.老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○喪失体験 2.老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○咀嚼機能の低下 ○筋骨格系の変化 ○体温維持機能の変化 3.精神機能の変化と日常生活への影響 ○認知機能の低下による日常生活の変化	○小さな健康状態の変化にどのようにすれば気づけるか、またどのような観察視点が必要か検討し、日常生活上の留意点を理解する
②高齢者と健康	3	3	ー	1.高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨粗鬆症　○骨折とその種類 ○筋力の低下と動き、姿勢の変化 2.高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○虚血性心疾患　○誤嚥性肺炎 ○老年期うつ病、うつ病性仮性認知症　○感染症 ○中枢神経疾患（脳卒中等） ○整形疾患について（変形性関節症等）	
合計時間	6	6	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(7) 認知症の理解
到達目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する
修了時の評価ポイント	〇認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる 〇健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる 〇認知症の中核症状と行動〇心理症状（ＢＰＳＤ）等の基本特性、およびそれに影響する要因を列挙できる 〇認知症の心理〇行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、及び介護の原則について列挙できる 〇若年性認知症の特徴について列挙できる 〇認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる 〇認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる 〇認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則、ポイントを理解でき、具体的な関わり方を概説できる 〇家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて列挙できる
指導の視点及び展開例	〇認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す 〇複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①認知症を取り巻く状況	2	2	ー	1.認知症ケアの理念 〇パーソンセンタードケア 〇認知症ケアの理念、視点	
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2	ー	1.認知症の定義と各病態による特徴 〇原因疾患別特徴 〇認知症と似た症状を示す現象や疾患 〇治療や健康管理に関する注意点	〇認知症とはどのようなものかをグループワークにて検討し、認知症に対する理解を深める
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1	1	ー	1.認知症の人の生活障害、心理〇行動の特徴 〇認知症の中核症状　〇BPSDについて 〇PPCEPについて　〇不適切なケア 〇生活環境への工夫 2.認知症の利用者への対応 〇表情や視線などから本人の気持ちを推察する 〇プライドを傷つけず、失敗しない状況を作る 〇認知症の進行に合わせたケア 〇コミュニケーションでの注意点 〇年齢に合わせた対応	〇事例を通し、認知症の方の立場に立って、状況を考えるグループワークを行うことにより、認知症の方の思いに対する理解を深める。また中核症状から引き起こされるBPSDに対して理解を深める 〇事例を通し、BPSDへの対応方法についてグループワークを行い理解を深める
④家族への支援	1	1	ー	1.家族支援と介護の受容過程 〇家族支援の視点　〇認知症の受容過程での援助 〇介護負担の軽減（レスパイトケア）	〇事例を通し、認知症の方の家族様の立場に立ち、どのようなケアを必要としているか等、家族への支援方法、寄り添い方を含めた理解を深める
合計時間	6	6	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(8) 障害の理解				
到達目標	障害の概念とＩＣＦ、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する				
修了時の評価ポイント	○障害の概念とＩＣＦについて概説でき、各障害の内容○特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる ○障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる				
指導の視点及び展開例	○介護において障害の概念とＩＣＦを理解しておくことの必要性の理解を促す ○高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す				
項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①障害の基礎的理解	1	1	―	1.障害の概念とICF ○ICFについて 2.障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念	○自分が障害を負った際どのように受け止め、どのような生活を送りたいのか具体例を提示し、グループワークを行うことで、障害のある方に対して関わる際の視点を理解する
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.5	1.5	―	1.身体障害について ○視覚障害　○聴覚障害　○平衡障害 ○音声、言語、咀嚼障害　○肢体不自由 ○内部障害 2.知的障害について 3.精神障害について ○統合失調症　○気分障害　○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害　○学習障害　○ADHD	
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	1	―	○障害の理解、受容支援、介護負担軽減 ○障害の受容過程	○障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方についてグループワークを行う
合計時間	3.5	3.5	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅰ　基本学習の知識
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する ○生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる
修了時の評価ポイント	○主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる ○要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる ○人の記憶の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる
指導の視点及び展開例	○介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①介護の基本的な考え方	3	3	―	1.理論に基づく介護と法的根拠に基づく介護 ○リスクマネジメント　○パーソンセンタードケア ○エビデンスベースドケア　○自立支援 ○基本的な介助方法と介助の種類	
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	4	―	○学習と基礎知識　○感情と意欲の基礎知識 ○こころが行動やからだに与える影響について	
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	4	―	○骨○関節○筋などのからだに関する基礎知識 ○ボディメカニクス ○中枢神経と末梢神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部機関に関する基礎知識	○椅子からの立ち上がりでどのようにすると立ち上がれて、どのような状態であると、立ち上がれないのかを体験し、人体の動きに対して理解を深める ○ボディメカニクスを活用した立ち上がり時の介護を実施及び体験することで、人のからだの仕組みを活用し介護を行う必要性を理解する
合計時間	11	11	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅱ　生活支援技術の講義・演習
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する ○生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる
修了時の評価ポイント	○家事援助の機能と基本原則について列挙できる ○利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる ○装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる ○体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる
指導の視点及び展開例	○介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
④生活と家事	4	4	ー	1.家事と生活の理解、生活支援 ○生活歴　○自立支援　○予防的な対応 ○主体性・能動性を引き出す ○多様な生活習慣○価値観	○介護職員の行う家事援助の機能についてグループワークを行い、援助について理解を深める ○視聴覚教材を用い、自立支援の家事援助についてグループワークを行う
⑤快適な居住環境整備と介護	3	3	ー	1.快適な居住環境に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故とその予防　○住宅改修 ○福祉用具貸与の活用	○事例を通して、グループワークにて住宅改修が必要な場所や福祉用具が必要なところを検討し、環境整備についての理解を深める
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3	ー	1.整容に関する基礎知識○支援技術 ○整容行動の基本、注意点、工夫 ○対象者に合わせた衣服やその着脱方法の選択 ○整容に関連した福祉用具や自助具の活用	○衣服の着脱の個別性について体験演習を行う ○片麻痺がある場合の衣服の着脱について演習を行う
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	12	12		1.移動、移乗に関する基礎知識 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法の選択 ○重心,利用者の動き,残存機能を活用した介助方法 ○起居動作に関する介助方法 （寝返り、起坐、座位） ○起立、移乗に関する介助方法 （ベッド一車椅子間、車椅子ートイレ間） ○移動介助（車椅子、杖、歩行器等） ○褥瘡とその予防	○杖歩行の介助について演習を行う ○片麻痺の方に対する車いすの移乗・移動介助についてで演習を行う ○ベッドからの立ち上がり移乗について、演習を行う ○車椅子の段差越え、障害物（溝）超えについて演習を行う
合計時間	22	22	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅱ　生活支援技術の講義・演習
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する ○生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる
修了時の評価ポイント	○食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる ○入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる ○排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる
指導の視点及び展開例	○介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	ー	1.食事に関する基礎知識 ○食事の意義と目的　○低栄養　○脱水 ○咀嚼、嚥下のメカニズム　○食環境 ○食事形態、食事姿勢と食事介助 ○適切な食器、福祉用具の選択 ○誤嚥の予防	○食事を行う際の注意点にてグループワークを行い、注意点や方法についての理解を深める ○食事時の基本姿勢に ついて体験演習を行う ○食事及び水分摂取介 助について演習を行う ○歯ブラシを使用した口 腔ケアや義歯の扱いについて演習を行う
⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	ー	1.入浴○清潔保持に関する基礎知識 ○入浴の意義、目的　○体調、身体状況の確認 ○本人のこころに配慮する ○基本的な入浴介助と入浴時の注意点（入槽動作、退槽動作、洗身動作） ○清拭などの身体の清潔介護 ○具体的な清潔保持のための介助方法 ○入浴用具の活用 ○目、鼻、耳、爪のケア　○陰部洗浄	○入浴が生活、身体機能にどのような影響を及ぼすかをグループワークを通して理解を深める ○手浴・足浴の介助について演習を行う ○清拭の介助について演習を行う ○浴槽への出入り及び立ち上がりについて演習を行う
⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	12	12	ー	1.排泄に関する基礎知識 ○排泄ケアによって生じる心理的な負担○尊厳や生きる意欲との関連（プライド・羞恥心など） ○排泄のメカニズム　○排泄の意味 ○排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ○おむつ使用時の弊害　○自立支援 ○便秘に対するケア ○環境設定と福祉用具○自助具などの活用 ○便秘の予防　○排泄介助の具体的な方法 ○一人介助、二人介助、おむつ介助、陰部洗浄	○本人への配慮を含めた排泄介助の注意点について、グループワークを行い、排泄・排泄介助についての理解を深める ○麻痺のある方への排泄の介助方法について演習を行う ○ポータブルトイレを使用した介助方法について演習を行う ○おむつ交換の介助について演習及び体験演習を行う ○トイレを使用しての排泄介助についての練習を行う
合計時間	24	24	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅱ　生活支援技術の講義・演習
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する ○生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる
修了時の評価ポイント	○睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる ○ターミナルケアの考え方、対応の方法・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる
指導の視点及び展開例	○介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3	ー	1.睡眠に関する基礎知識 ○睡眠の意義と目的 ○睡眠の目的と効果を高める工夫 ○睡眠障害　○睡眠薬 ○安眠のための介護○環境設定の工夫	○睡眠環境についてグループワークを行い、個別性の理解を深める ○介護用ベッドの基本操作とシーツの扱い方についてグループで演習を行う ○体位交換について演習を行う ○安楽な臥位姿勢について演習を行う
⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	3	3	ー	1.終末期ケア（ターミナルケア）に関する基礎知識 ○高齢者の死に至る過程 ○ターミナルケアのポイント ○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性　○エンゼルケア	○終末期を迎えた利用者に対しどのような態度、役割を担うべきかグループワークで検討し、ターミナルケア時の介護者の基本的態度、対応について理解を深める
合計時間	6	6	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅲ　生活援助技術演習
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する ○生活支援技術の基本知識の学習に加え、介護現場での実習を通して、研修内で身に着けた知識、技術を実践し、介護の仕事についての理解をさらに深める
修了時の評価ポイント	○主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる ○要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる ○利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる
指導の視点及び展開例	○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す ○介護の専門性を理解した介護職員の視点を持ち、利用者の生活に関わることができるよう助言を行う ○分析、評価を行い、介護計画の立案と再評価、修正が行えるよう助言を行う

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
介護実習	8	8	ー	○施設実習 1.介護実習（老人保健施設）－8時間 ○１名の利用者様へ着目し、その方について、評価分析○ニーズ把握→目標設定→設定した目標を達成するうえで必要な事由の列挙→日々のケアに必要となる事項→日々の実施計画の策定→注意点・工夫の列挙を行い、多角的なケアプランを作成する。その事を通してQOL、介護、介護支援、パーソンセンタードケアについて現場に勤めている職員から指導を行う。 ○実際の介護現場において実習指導責任者の指導のもと、施設利用者様に対して直接介護を行い、それに対するフィードバックや注意喚起、アドバイスを行う事により、介護現場における実践的な実習を行う。 2.在宅サービス提供現場見学 （通所リハビリテーション、通所介護）－6時間 ○在宅サービスを実習指導責任者の指導のもと、在宅サービス提供のPDCAサイクルに基づいた実際のサービス提供の場面を見学していただく。さらに、ケアプランの作成、その注意点等を指導していただき、在宅介護現場に必要な知識や技術について指導し、在宅サービスの重要性を認識していただく。 ○利用者様との交流をしていただくことにより、学習した高齢者の方とのコミュニケーションスキルを活かし、学習内容を現場で実践する場とし、それに関する注意点や指導を行う。 ※新型コロナウイルス感染の影響により施設実習が受入不可となった場合には、演習用カリキュラムで代用する。	○ケアプラン作成に必要な考え方、知識、技術について、実習指導者から指導をしていただく ○指導者の指導の下、複数の利用者様を対象に介助を行い、習得した介助技術を現場で活かせられるようにする。また、その内容については、事後に指導者から介助方法や注意点について、フィードバックをしていただき、その内容についてリアルタイムで理解、習得できるようにする ○実際、利用者様と交流する機会を設け、習得したコミュニケーション技術を実践する場とする ○現場での実習を通して、座学では培えない実用的な知識・技術の習得を図ることにより、介護とに対するイメージ、就職後の自身の働き方について、より具体的に体験するため、当カリキュラムに関しては、実習を導入する
在宅サービス提供現場見学	6	6	ー		
合計時間	14	14	0		
使用テキスト					

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 Ⅲ　生活援助技術演習
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する ○生活支援技術の基本知識の学習に加え、介護現場での実習を通して、研修内で身に着けた知識、技術を実践し、介護の仕事についての理解をさらに深める
修了時の評価ポイント	○主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる ○要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる ○利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる ○自分の意見を表出し、他者の意見に聞き取るなどのコミュニケーション能力を培うとともに、チームアプローチの基礎を実行できる
指導の視点及び展開例	○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す ○介護の専門性を理解した介護職員の視点を持ち、利用者の生活に関わることができるよう助言を行う ○分析、評価を行い、介護計画の立案と再評価、修正が行えるよう助言を行う

項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①介護課程の基礎的理解	4	4	ー	1.介護課程の基礎知識 ○介護課程の目的・意義・展開 ○介護課程とチームアプローチ	
②総合生活支援技術演習	6	6	ー	1.総合生活支援技術について ○介護に携わるにあたり必要な視点や分析を行い、どのように行えば生活がその人らしく豊かになるか、さらにはQOLが向上するかを利用者の心身の状況に合わせた介護が行えるかを想定する事を目的とする ○事例を提示→評価分析・ニーズ把握→目標設定→設定した目標を達成するうえで必要な事の列挙→日々必要となる事項→日々の実施計画の策定→注意点・工夫の列挙 上記のサイクルでグループワーク等を用い、参加者同士で意見を共有する 演習により、考え方を身に着けるだけでなく、各々のコミュニケーション技術の向上も目的とする ○事例に関しては、「認知症」、「脳卒中片麻痺」を使用するが、参加者の希望に応じて変更することも可能とする	○症例を通して、グループワークを行い、その症例に対しての介護課程を話し合い、症例に対する介護計画を作成する。また、グループワークを行うことにより、コミュニケーション能力を培い、現場で行うチームアプローチの重要性を認識してもらう。各個人の意見を尊重したグループワークを主として行う
合計時間	10	10	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				

介護職員初任者研修　シラバス

科目名	(10) 振り返り				
到達目標	〇研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる 〇研修と通じて学んだこと、今後も継続して学ぶべきことを演習を通して受講者が気づき、利用者の生活を支援する介護ができる				
修了時の評価ポイント	なし				
指導の視点及び展開例	〇介護に関わる者として基本的態度について理解を促す 〇研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを受講者自身に言語化させ、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人一人が今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す 〇介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持つことができるよう促す				
項目名	時間			内容	
	合計	通学	通信	講義内容	演習・実習実施方法
①振り返り	2	2	ー	1.研修のまとめ 〇研修内容の振り返り 〇今後継続して学ぶべきこと 〇根拠に基づく科学的な介護	
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2	2	ー	1.継続的な研修について 〇勉強・学習・研修の意味　〇現場での研修・研鑽 〇修了後の研修・研鑽について、OJT等のシステムを紹介し、介護職としてどのようなキャリアが選択できるのかを紹介する	
合計時間	4	4	0		
使用テキスト	第１分冊　介護職員初任者研修テキスト（QOLサービス）				